

中学 1 年 国語科 教材別テスト③ 模範解答・解説

「ちょっと立ち止まって」(桑原茂夫)／光村図書『国語 1』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。教科書『国語 1』の「ちょっと立ち止まって」のページを開いたまま解答します。この教材には絵(図版)がついているので、必ず教科書の図を見ながら解くことが大切です。段落番号は、形式段落を上から順に①②③…と数えたものです。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き(20問)	1点×20=20点
	二	文法(文の成分=主語・述語・修飾語・接続語・独立語)	2点×7=14点
	三	語句・漢字の知識(同音異義・部首名・慣用句・四字熟語・対義語・熟語の組み立て)	2点×8=16点
思考・判断・表現 50点	四	「ちょっと立ち止まって」の読解	50点
合計			100点

【出題のねらい】

- ① 文の成分(主語・述語・修飾語・接続語・独立語)を文の中から見つけ出せるか。
- ② 「ルビンのつぼ」の図について、どこに目をつけると何が見えるのかを言葉で説明できるか。
- ③ 「一方が見えているときは他方は見えない」という、この教材の中心となる考えをつかめているか。
- ④ 「ルビンのつぼ」・「橋と少女」といった複数の具体例が、筆者の主張を支えるために並べられていることに気づけるか。
- ⑤ 筆者の主張(=ふだんはひと目見たときの印象にとらわれがち。見るものや見方を変えれば新しい発見がある)を、自分の言葉で字数内にまとめられるか。

一 漢字の読み書き （1点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	さっかく	⑪	背景
②	りんかく	⑫	注目
③	しゅんじ	⑬	意識
④	はあく	⑭	複数
⑤	せんさい	⑮	距離
⑥	かく（れる）	⑯	望遠鏡
⑦	うなが（す）	⑰	表面
⑧	ばくぜん	⑱	模様
⑨	けいこう	⑲	魅力
⑩	せんめい	⑳	発見

小計 20点

【注意したい字】

④「把握」は「はあく」。「はにぎ」「はこう」としないこと。⑥⑦は送りがなまで必要。⑪は「背影」と書く誤が多い（景色の「景」）。⑮「距離」はどちらもむずかしい字。「巨離」「距離」に注意。⑯「望遠鏡」の「鏡」は金へん。⑲「魅力」の「魅」は、きへんではなく「鬼」が入る。

二 文の成分 （2点×7＝14点）

A 校庭の／大きな／桜が／とても／美しい。 B はい、／私が／昨日／図書室の／本を／借りました。 C 雨が／降った。／ところが、／試合は／中止に／ならなかった。

番号	解答	解説
(1)	桜が	「何が美しいのか」＝桜が。「校庭の」は修飾語なので主語ではない。
(2)	美しい。	述語はふつう文の最後にある。「どんなだ」にあたる部分。

二 文の成分 (2点×7=14点) (つづき)

番号	解答	解説
(3)	美しい	「とても」は程度を表す修飾語。修飾するのは「美しい」。「桜が」ではない。
(4)	はい	応答・あいさつ・よびかけ・感動を表す語は独立語。読点をふくめて「はい、」と書いても正答。
(5)	私が	「だれが借りたのか」＝私が。
(6)	接続語	前の文と後の文をつなぐ成分。漢字三字で「接続語」。「接続詞」は品詞名なので、ここでは×とする。
(7)	イ	「雨が降った」のに「中止にならなかった」と、予想とは反対の内容が続く。「ところが」は逆接の接続語。

小計 14点

三 語句・漢字の知識 (2点×8=16点)

番号	解答	解説
(1)	講演	どちらも「こうえん」。「後援」「公演」「好演」でも正答とする。
(2)	こざとへん	「隠」の部首は「阝」(左側)。右側につく「阝」はおおざと(例：都・郡)。左右で名前が変わることに注意。
(3)	にんべん	「促」の部首は「イ」。「足」ではない。
(4)	うおへん	「鮮」の部首は「魚」。「羊」ではない。
(5)	イ	「目を疑う」＝見たものが信じられないほどおどろくこと。「ちょっと立ち止まって」の内容ともつながる慣用句。
(6)	じゅうにんといろ	「十人十色」＝人それぞれ考え方や好みがちがうこと。「じゅうにんじゅっしょく」は×。
(7)	単純	複雑 ⇄ 単純。「簡単」でも意味は近いが、対義語としては「単純」を正答とする。
(8)	ウ	「読書」＝「書を読む」。下の字が上の字の目的・対象になる組み立て。「登山」＝「山に登る」で同じ。ア高低は反対の意味、イ岩石は似た意味、エ青空は修飾の関係。

小計 16点 / 知識・技能 合計 50点

四 「ちょっと立ち止まって」の読解 (50点)

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4点	ア	「ルビンのつぼ」は、白い部分に注目するとつぼ、黒い部分に注目すると向き合う二人の顔が見えてくる絵。何に注目するかで見えるものが変わること示す例。イ～エは本文と無関係。
(2) 4点	(例) 中央の白い部分。(8字)	「中央(真ん中)」+「白い部分」の二語がそろって4点。どちらか一方なら2点。十字を超えたら－1点。
(3) 4点	(例) 左右の黒い部分。(8字)	「左右(両側)」+「黒い部分」の二語がそろって4点。(2)と(3)で「白」「黒」が逆になっていたら両方とも0点。
(4) 4点	イ	この教材の中心となる考え。二つの見方は同時には成り立たない(つぼが見えているときは顔は見えない)。アは「同時に見られる」としているので×。ウ・エは本文に書かれていない。
(5) 4点	ア	「ルビンのつぼ」と同じような経験が、日常生活でもよくあることを示す例。目が少女に引きつけられると橋や池などが背景になり、逆に橋の形に注目すると、その上を通る人などが背景になる。つまり何に注目するかで、見えるものと背景になるものが入れかわるということ。
(6) 2点 ×2 =4点	しかし…イ このように…オ	「しかし」は前の内容と逆のことを述べる＝逆接。「このように」はそれまでの内容を受けてまとめ、言いかえる働き。
(7) 4点	イ	説明文では、具体例は主張を支える根拠になる。身近な例を重ねることで、読者は「たしかにそうだ」と納得しやすくなる。
(8) 4点	イ	「話題(ルビンのつぼ)の提示」→「具体例(橋と少女・若い女性とおばあさんの絵など)」→「筆者の考え(見るものや見方を変えてみよう)」という尾括型に近い構成。
(9) 6点	(例) ひと目見たときの印象にとらわれ、他の見方に気づきにくいこと。(30字)	「印象」という語が入っていること(必須)+「印象にとらわれる(縛られる)」(3点)+「他の見方に気づきにくい／見方を変えようとしなない」(3点)で6点。「印象」が抜けていれば最大3点。二十～三十字から外れたら－1点。
(10) 7点	(例) ちがう見方がないかと考え、ものの新しい面を見つけようとする。こと。(32字)	「いったん見るのをやめて考える・見方を変えてみる」(4点)+「新しい面・ちがう姿を見つける」(3点)の二点で採点。「ゆっくり歩く」「休む」のように字面どおりに答えたものは0点。二十五～三十五字から外れたら－1点。
(11) 5点	ア・ウ・エ	イ…「本当の姿」が一つあるとは述べていないので×。オ…筆者の主張と正反対なので×。ア・ウ・エの三つそろって5点(完答)。一つでも欠けたり余ったりすれば0点。

【この教材で落としやすいポイント（8つ）】

1. 「ルビンのつぼ」は、中央の白=つぼ／左右の黒=二人の顔。白黒を逆に覚えられないこと。
2. 二つの見方は同時には見えない。この一文がこの教材の核心。
3. 「橋と少女」の例は、注目したものが目立ち、ほかのものが背景になるという、ルビンのつぼと同じ経験を日常で示したもの。「人によって見え方がちがう」話とまちがえやすい。
4. 絵の例も月の例も、すべて筆者の主張を支えるための具体例。例そのものが言いたいことではない。
5. 題名「ちょっと立ち止まって」は比喻。「歩くのをやめる」という意味ではなく、「見方を変えて考えてみる」という意味。
6. 筆者は「一つの見方が正しい／まちがい」とは言っていない。「どちらも成り立つ」と言っている。
7. 最後の段落は、絵の話からものの見方全般へと話が広がった、一般化された主張になっている。
8. 文の成分では、「とても」が修飾するのは述語（美しい）。主語を答えてしまう誤りが多い。

